

令和元年6月17日現在

機関番号：16301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K21256

研究課題名（和文）医療専門職者における専門職連携能力の熟達と経験学習に関する研究

研究課題名（英文）The development of medical professionals' interprofessional collaborative competency and their experiential learning.

研究代表者

高橋 平徳 (TAKAHASHI, Yoshinori)

愛媛大学・教育・学生支援機構・講師

研究者番号：90612200

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、医療専門職者が、どのように専門職連携能力を業務での経験によって学習し、熟達させていくのかについて明らかにすることであった。救急救命士は、キャリア10年目までは同職種での連携を中心に、11年目以降は他職種との連携から能力獲得が促されていることを明らかにした。そして、キャリアの進展に応じて、連携をリソースとして能力が獲得される仕事現場は、組織内同職種 組織間同職種 組織内多職種 組織間多職種と拡大していく傾向があることを示すことができた。さらに、連携 ギャップ認識 改善点把握 修正行動というプロセスを経ることで連携という経験から能力が獲得されるということを示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、以下の4点が挙げられる。1.連携を学習のリソースとして捉え、仕事現場での連携と能力獲得の関係性を実証的に明らかにしたこと、2.他職種との水平的学習のメカニズムの一端を明らかにしたこと、3.連携の対象と範囲によって分析する重要性和有効性を指摘したこと、4.連携という経験による学習のプロセスモデル（連携 ギャップ認識 改善点把握 修正行動）を提示したこと、である。これらの知見を活かすことで、医療現場での専門職連携能力開発に向けた環境形成やマネジメント、研修内容・評価、専門職連携教育の改善に貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify how healthcare professionals learn and improve their interprofessional collaborative competency through their work experience. The research has revealed that the acquisition of skills required for the paramedics was promoted by cooperation with the same type of work until the 10th year of their career and that from the 11th year onward, it is enhanced by cooperation with other types of work. As their career advances, the paramedics develop their competence in increasingly expanding environments: the same type of work in their regular organization the same type of work in different organizations different types of work in their regular organization different types of work in different organizations. The professional competence of the paramedics is acquired through the following steps: cooperation recognition of gaps awareness of points to improve corrective action.

研究分野：専門職連携教育 経験学習 体験学習 連携からの学習

キーワード：専門職連携教育 IPE 専門職連携実践 IPW 経験学習 体験学習 連携からの学習

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

医療技術が高度・複雑化している中でさまざまな医療専門職がチームを形成し、患者の診療・ケアに当たる必要性が増大している。また高齢化や患者・サービス利用者ニーズの多様化の中で、地域の保健医療福祉資源を適切に活用するためにも、医療専門職や行政・介護・福祉に関わる人々との連携が欠かせないものとなっている。このような状況で、「患者・サービス利用者中心の医療」の理念が今一度意識化され、その実現のために、医療職・医療関係者がそれぞれその能力・専門性を発揮しつつ「患者・サービス利用者中心の医療」を実現するため連携していく専門職連携実践の必要性が叫ばれている。そして、その能力の内実にせまる研究や (Barr, 1998; Yamamoto, 2013), 教育段階 (インタープロフェSSIONALエデュケーション: IPE) や研修でのプログラム開発と評価のための研究が進んでいる (酒井, 2011; 山本他, 2013; 小野寺他, 2014)。

一方で、実際の医療現場での専門職連携能力獲得のありかたに迫る研究は十分になされていない。細田 (2012) は、医療現場での「チーム医療」(連携実践) に質的に迫っているが、その能力獲得はフォローされていない。松尾 (2009) は医療現場での実践を「組織学習」と位置づけているが、対象が管理者とリーダーに限定されており医療現場全体に焦点が当てられてはいない。実際の現場での経験によってどのように各医療専門職者の能力が獲得しているかについては、看護師、保健師、診療放射線技師を対象とした松尾ら (2008; 2013; 2014) の研究があり、ヒューマンスキルといった連携に関する能力獲得に視線が向けられ大きな示唆を得るが、専門職連携能力獲得の視点での分析はなされていない。

#### 2. 研究の目的

本研究は、医療専門職者が専門職連携能力をどのように業務での経験によって学習し、熟達させていくのか、つまり、医療専門職者のキャリアにおける経験と獲得される専門職連携能力の関係性を明らかにすることを目指した。

#### 3. 研究の方法

本研究では、研究目標の達成に向けて、文献検討、調査という2つの軸を立てて検討を行った。文献検討では、業務での連携による能力開発に関する文献検討: 経験学習、組織学習、状況的学習、職場学習、越境、コンピテンシー、チームマネジメントというキーワードをもつ文献を中心に収集・検討した。調査では、救急救命士に対するインタビュー調査と質問紙調査の分析を行った。

#### 4. 研究成果

研究初期の文献の検討によって、経験学習のプロセスを検討する上でのモデルや、獲得されている能力の内実、現場での学習を分析する上で検討すべき課題が抽出され有益な示唆が得られた。一方で、水平的学習研究の視点に立った学習のリソースとしての経験や学習成果の内実の研究がほとんど空白であることや、連携の類型や内実は明確化されていないこと、また、現場での学習プロセス全体を包括するモデルも未構築であり、現場で行われている連携による経験と能力獲得の関係はほとんど検討されていないといったように、仕事現場における学習については、断片的な解明しかなされていないことが明らかとなった。この研究は、論文 (高橋平徳 (2015) 現場における学習研究の現状と課題. 北海道大学大学院経済学研究科経済学研究, 65(2), 3-32.) として結実している。

救急救命士に対するインタビュー調査(1件)と質問紙調査(124名)を分析し、救急救命士の専門職連携による能力の熟達と経験学習についての論文をまとめ出版した(高橋平徳(2018)救急救命士の経験学習プロセス: 医療専門職間の連携に注目して. 松尾睦編著, 医療プロフェッショナルの経験学習, 同文館出版, 103-144.)。本論文では、現在医療現場で働く救急救命士は、キャリア10年目までは同職種での連携を中心に、11年目以降は他職種との連携から能力獲得が促されていることを明らかにし、キャリアの進展に応じて、連携をリソースとして能力が獲得される仕事現場は、組織内同職種 組織間同職種 組織内多職種 組織間多職種と拡大していく傾向があることを示すことができた。さらに、連携 ギャップ認識 改善点把握 修正行動というプロセスを経ることで連携という経験から能力が獲得されるということを示すことができた。

教育現場での専門職連携教育の成果と改善に関して学会報告を行った(高橋平徳他(2015)初年次の多職種連携地域基盤型医療実習の効果. 第47回日本医学教育学会大会.)。全下位尺度において有意に実習後得点が増加し、とくに地域医療の理解( $r=0.73$ ), 地域生活の理解( $r=0.75$ )に有効であること示す結果を公表した。さらに、共同研究を行ってきた専門職連携能力を測定する尺度開発についての論文が完成し、学術誌に掲載された(Sakai I., Yamamoto T., Takahashi Y., et al.(2017) Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS29). Journal of interprofessional care, 31(1), 59-65.)。

また、本研究での知見を活用した、看護職養成課程での体験学習の具体的な実施方法について、編著者として看護教員と連携協働し、書籍をまとめ今夏出版予定となっている(看護教育実践シリーズ5 体験学習の展開, 医学書院)。本書は学生の体験学習をいかに計画・実施し、支援することでより効果的に行えるかということを体系的に網羅した書物であり、看護職にとどまらず今後の医療専門職の経験学習に貢献するものであると考えている。

他にも、専門職連携による能力の熟達と経験学習の観点から、学生対象の他大学他学部他学科教育プログラムを分析して、「専門職連携教育と経験学習から見たリーダー村の意義」として報告を行った(高橋平徳(2017). 愛媛大学教職総合センター平成28年度教員養成FD集会報告書集い合い協同する教員養成, 24-26)。

近接領域である、学校教員が今日求められている「チーム学校」を可能とする、専門職連携能力と熟達のための経験学習についてインタビュー調査を行い、特に地域との連携・協働に焦点を当て、資質・能力の構成概念とその構造を検討、研究集会で報告するのみでなく、論文を執筆し公表することができた(高橋平徳他(2018)地域との連携・協働を担う教員に求められる資質・能力を構成する概念に関する一考察. 愛媛大学教育・学生支援機構, 大学教育実践ジャーナル, 第16号, 47-52.)。その研究の結果、地域との連携・協働を担う教員に求められる資質・能力として、26のサブカテゴリーから9つのカテゴリー、4つの【コアカテゴリー】が生成され、その構造を以下のように示した。中核に 省察力, 連携マインド という連携・協働の【軸となる資質・能力】が位置付けられ、その周りを 状況認識力, 意思決定力 等【企画者としての資質・能力】と、 コミュニケーション力, チームワーク力, リーダーシップ力 等【運営者としての資質・能力】が取り囲み、さらにその外周を 組織内調整力, 組織間調整力 という【所属する組織の一員としての資質・能力】が取り囲んでいる。この知見は、医療専門職の専門職連携能力の熟達と経験学習を検討する上でも重要な視点となると言える。

<参考文献>

- Barr, H. (1998) Competent to collaborate: Towards a competency-based model for interprofessional education. *Journal of Interprofessional Care*. 12( 2), 181-187.
- 細田満和子 (2012) 「チーム医療」とは何か：医療とケアに生かす社会学からのアプローチ，日本看護協会。
- 松尾睦，岡本玲子，塩見美抄他，他 (2013) 保健師の経験学習プロセス。国民経済雑誌，208(4)，1-13。
- 松尾睦，正岡経子，吉田真奈美，他 (2008) 看護師の経験学習プロセス：内容分析による実証研究。札幌医科大学保健医療学部紀要，11，11-19。
- 松尾睦，武藤浩史，小笠原克彦 (2014) 診療放射線技師の経験学習プロセス。日本診療放射線技師会誌，61，13-20。
- 小野寺由美子，大塚真理子，國澤尚子，他 (2014) 専門職連携のための中堅職員研修プログラムの作成。保健医療福祉連携：連携教育と連携実践，7(1)，11-18。
- 酒井郁子 (2011) 千葉大学「亥鼻 IPE」の現在--看護学部・医学部・薬学部の連携協働プロジェクトの進化。看護教育 52(6)，444-450。
- Yamamoto, T., Sakai I., Takahashi, Y., et al. (2013) Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: a pilot study in Japan. *Journal of Interprofessional Care*. 28(1), 45-51.
- 山本武志，苗代安可，白鳥正典，他 (2013) 大学入学早期からの多職種連携教育(IPE)の評価：地域基盤型医療実習の効果について。京都大学高等教育研究，19，37-45。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- 高橋平徳，杉田浩崇，山崎哲司 (2018) 地域との連携・協働を担う教員に求められる資質・能力を構成する概念に関する一考察。愛媛大学教育・学生支援機構，大学教育実践ジャーナル，第16号，47-52。
- 高橋平徳 (2017) 専門職連携教育と経験学習から見たリーダー村の意義。愛媛大学教職総合センター平成28年度教員養成FD集会報告書集い合い協同する教員養成，24-26。
- Sakai I., Yamamoto T., Takahashi Y., et al. (2017) Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS29). *Journal of interprofessional care*, 31(1), 59-65.
- 高橋平徳 (2015) 現場における学習研究の現状と課題。北海道大学大学院経済学研究科，経済学研究，65(2)，3-32。

〔学会発表〕(計4件)

- 高橋平徳，杉田浩崇，山崎哲司 (2017) 「チームとしての学校」を担う教員に求められる資質・能力を構成する概念に関する一考察，平成29年度日本教育大学協会研究集会，2017年10月14日，刈谷市総合文化センターアイリス(愛知県・刈谷市)。
- 高橋平徳 (2016) 専門職連携教育と経験学習から見たリーダー村の意義。愛媛大学教職総合センター平成28年度教員養成FD集会，2016年12月1日，愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール(愛媛県・松山市)。
- 高橋平徳，山本武志，苗代康可他 (2015) 初年次の多職種連携地域基盤型医療実習の効果。第47回日本医学教育学会大会，2015年7月24日，朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター(新潟県・新潟市)。
- 山本武志，高橋平徳，苗代康可他 (2015) 初年次医学生によるプロフェッショナリズムの行動目標の設定とその評価の試み。第47回日本医学教育学会大会，2015年7月24日，朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター(新潟県・新潟市)。

〔図書〕(計1件)

- 高橋平徳 (2018) 救急救命士の経験学習プロセス：医療専門職間の連携に注目して。松尾睦編著，医療プロフェッショナルの経験学習，同文館出版，103-144。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：  
ローマ字氏名：  
所属研究機関名：  
部局名：  
職名：  
研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。